

活動名 通学合宿	団体名	通学合宿実行委員会
	地域	広島県東広島市
	代表者	事務局 権代 明典
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>私達の地域では、子供から大人への成長の第一歩である小学校中高学年の子供を対象に、小学校へ通いながら地域センターへ寝泊まりし地域の方々と共に、食事・レクレーションなどを行う”通学合宿(2泊3日)”を、地域の協力を得て実施した。 この活動で子供たちへ下記会得を目指し、</p> <p>①地域の方の支えを肌で感じる。 ②基本的な生活習慣を身に付ける。 ③自立心、協調性を学ぶ</p> <p>そして、保護者は地域の方との連携を深める。</p> <p>◆実施時期 平成23年 10月6～8日 2泊3日 東広島市高屋町 小谷地域センター</p> <p>◆参加人数 子供:76名(小学4～6年生男女) 大人:41名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:117名</p>		



『小谷元気ッズ！わくわく！わんぱくSCHOOL』



入所式



竹コップ、竹箸作り



自作の竹コップ、竹箸で食事！

◆実施に伴う効果

総括：地域で子ども達を育てる想いの強化と地域活性化へ繋がった。

1. 子育てを終えた世代の方が、子ども達とふれ合うことによる心の活性化元気のよい子ども達と物を作ったり、遊んだりと楽しい時間を過ごせたと感謝された。
2. 地域と保護者、保護者同士のコミュニケーション強化 日頃、地域の方と接する事のない保護者が、地域の方々と子育てについて話すなどが行われた。
3. 親離れ、子離れの促進
親元を離れた2泊3日の合宿は、親、子とも成長へ繋がった。
4. 友達ネットワークの構築
上級、下級生と過ごす事でそれぞれの考え方を知り、友達の輪が広がった
5. 地域の方への感謝
子ども達は、地域の方が自分達のために一生懸命して下さることを実感出来た。

◆苦労した点

1. 合宿期間中の安全・健康の確保
登下校時の事故、イベント時の怪我、食中毒等の防止策の検討と対応策に時間を要した。
2. 参加児童増大によるスケジュール管理
募集40名に対し応募76名と大盛況、全児童受け入れにより食事、入浴などは、班制で対応するなど、スケジュール管理に奔走した。
3. テント風呂の設営と撤去
地域センターにはお風呂がないため、テント風呂の機材運搬から設営、撤去作業をおやじの会保護者、先生方とで行った。(人員確保が大変であった。)

◆今後の課題・発展の方向性

課題

現状の通学合宿は、準備&実行含め地域センターの負担が大きく、今後この負担を軽減して行く必要がある。平成25年度から開始される市民協働街づくりでは、真の地域行事として通学合宿を実施して行くことが望まれる。

発展性

上記如く、地域行事としての定着化を目指して行くことは当然であるが、今回初めて、広島大学ボランティアの皆さんにお手伝いしていただいた。日頃、小学児童と触れることがない彼らにとって、新鮮でかつ貴重な経験となったようである。よって今後は、地域活性、子ども育成のみならず、若者の成長の場としても「通学合宿」を企画・運営していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今回、貴財団からの助成により充実した地域イベントとなり、子ども、地域の方、保護者も大喜びでした。初めて、合宿参加者が募集人員の2倍近くになるなど、年々通学合宿が盛況になって来ており、子ども達もこの合宿を心待ちにしています。また、地域の各団体の支援により、この合宿が実施出来ているため、改めて地域の大切さ、人との繋がりや重みと言うものを感じました。

季節外れの感があった「肝だめし」では、子ども達の騒ぐ声が地域センター周辺に響き、地域の方から苦情が来るかなと思いましたが、逆に、「久しぶりに元気の良い子どもの声が聞こえた」、「子どもはやっぱりこうでないといけない」など、温かい言葉をいただいた。

「元気の良い小谷っ子を育てよう」のスローガンの基、この通学合宿をより充実させていきたいと考えています。

貴財団の助成により、素晴らしい通学合宿が実施出来たことを、心より感謝申し上げます。